

少女が、あなたに会いに来る。



フェルメール 《真珠の耳飾りの少女》展

17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日

Press Release

Vermeer's Girl with a Pearl Earring:

Dutch masterpieces of the 17th century

Vermeer



開催にあたって

本展は、17世紀オランダ絵画を代表する画家ヨハネス・フェルメール（1632-1675）の傑作《真珠の耳飾りの少女》を中心に、マウリッツハイス美術館が所蔵する名品を紹介する展覧会です。《真珠の耳飾りの少女》は、2会場で合計約120万人が来場した2012年の「マウリッツハイス美術館展」（朝日新聞社など主催）以来、実に14年ぶりの来日となります。

この作品は、オランダ・ハーグのマウリッツハイス美術館が誇る、世界屈指の名画です。今回の来日はマウリッツハイス美術館の改修工事による臨時休館に伴い実現することとなりました。同館のマルティネ・ゴッセリンク館長は、「当館には毎年、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》を愛する何千人もの日本人観光客が訪れます。当館にとって、この『少女』の旅は、日本の皆さまに彼女を送り届けられる、おそらくは最後となるであろう特別な機会です。」と話します。

本展では、ヨハネス・フェルメール《真珠の耳飾りの少女》《ディアナとニンフたち》を始めとするマウリッツハイス美術館所蔵作品、全12点の展示を通して、17世紀オランダ絵画の名画に出会う、またとない機会を提供します。



Vermeer's Girl with a Pearl Earring

Dutch masterpieces of the 17th century

ヨハネス・フェルメール《真珠の耳飾りの少女》
ヨハネス・フェルメール《ディアナとニンフたち》(部分)
ピーテル・ラストマン《ラザロの復活》
セイザル・ファン・エーフェルディンヘン《正直者を探すディオゲネス(ある家族の寓意的肖像画)》
フランス・ハルス《男の肖像》
レンブラント・ファン・レイン《笑う男》
ヘラルト・テル・ボルフ《揺りかごの傍らで縫物をする女》
ヤン・ステーン《老いが歌えば若きが笛吹く》(部分)
エマヌエル・デ・ウィッテ《想像のカトリック聖堂の内部》
パウルス・ポッテル《水に映る牛》(部分)
ヤン・ダーフィッツゾーン・デ・ヘーム《宝石箱と花のある豪華な静物》
マリア・ファン・オーステルウェイク《装飾的な壺の花》



みどころ

1

フェルメール ROOM

本展では、マウリッツハイス美術館が所蔵するフェルメール作品のうち、2点が出品されます。

14年ぶりとなる《真珠の耳飾りの少女》と、
フェルメールの最初期の貴重な作品《ディアナとニンフたち》。
フェルメールの初期と全盛期の作品を詳細に紹介します。

ヨハネス・フェルメール（デルフト1632-1675デルフト）

《真珠の耳飾りの少女》

1665年頃

油彩、カンヴァス 44.5 × 39.0 cm

大きな灰青色の瞳でこちらを振り返る《真珠の耳飾りの少女》。暗い背景に浮かび上がる少女の顔と、東洋的な青いターバン、耳元に輝く大きな真珠により、見る者は一瞬で引き込まれる。フェルメールが33歳の頃に描いた本作は、特定の人物ではなく性格やタイプを表現する「トローニー」と呼ばれるジャンルに属し、理想化された表情と異国風の装いは時代を超えた神秘性を湛える。色彩は青と黄色のみにほぼ限定されているが、青はラピスラズリから作られたウルトラマリンという非常に高価な絵具が用いられている。わずかな数筆で描かれた真珠の輝きや、柔らかな光に包まれた少女の表情には、フェルメールの卓越した光の表現が凝縮されている。本作は1881年のハーグでのオークションに出品されるまで広く知られていなかったが、美術収集家デス・トンベによって購入され、彼の死後、マウリッツハイス美術館に遺贈された。今日、この作品は「オランダのモナ・リザ」とも称され、フェルメール芸術を象徴する一作として、今なお多くの人々の想像力を掻き立てている。



ヨハネス・フェルメール（デルフト1632-1675デルフト）

《ディアナとニンフたち》

1653-1654年頃

油彩、カンヴァス 97.8 × 104.6 cm

ヨハネス・フェルメールの初期の代表作で、風俗画によって名声を確立する以前の20歳代前半に制作されたと考えられている。中央には古典神話における月の女神・ディアナ、周囲には女神に付き従うニンフ（森の精）たちが、森の空地で穏やかに過ごす様子が描かれる。画面には安らぎに満ちた穏やかな雰囲気が漂い、温かみのある色彩が特徴である。本作はかつて、レンブラントの弟子ニコラス・マースの作品と考えられていたが、1885年の修復作業中に、偽造された署名の下から「JVMeer」というモノグラムが見つかり、フェルメールの作品であると判明した。また、明るい真昼の情景と解釈されてきたが、1999年から2000年に行われた保存修復により、画面右上の青空は後世の加筆であり、本来は夕景を思わせる暗褐色のトーンだったことが明らかになり、本来の姿に戻された。画家の初期様式を伝える重要な作品である。

ヨハネス・フェルメール （1632-1675）

17世紀オランダを代表する画家の一人であり、静謐な日常生活の情景を精緻に描いた作品で知られる。制作に関しては一枚の絵に長い時間を費やしたため、完成させた作品は多くなく、現存する作品はわずか30数点しか知られていない。

画家になった当初は聖書や古典神話に基づく歴史画を描いていたが、24歳頃から室内風俗画へと転向した。マウリッツハイス美術館所蔵の《真珠の耳飾りの少女》は、フェルメール作品の中でも最も著名で世界的に広く愛される作品の一つである。



17 世紀オランダ絵画の名画を巡る旅

フェルメールの作品 2 点に加え、10 点が展示されます。

歴史画、肖像画（トローニーを含む）、

風俗画、教会内景画、風景画、静物画の 6 つのテーマで構成され、

来場者をマウリッツハイス美術館の世界にご案内します。

レンブラント・ファン・レインは 17 世紀オランダを代表する非凡で多才な芸術家である。特定のジャンルだけを描く同時代のオランダの画家とは異なり、彼は風景画に静物画、聖書や神話の歴史画など幅広い作品を手がけ、とりわけ肖像画やトローニーを数多く残した。故郷ライデンで修業を積んだのち 1625 年から独立した画家として活動を始める。強い明暗対比を特徴とする独自の画風を確立し、1630 年代にはアムステルダムで肖像画家として名声を高めた。本作は若き日のレンブラントが描いたトローニーの傑作で、男の豪快な笑いを自由で表現力豊かな筆致で描写している。金箔を貼った銅板という珍しい支持体や大胆な技法は同時期の他の作品にも用いられており、若きレンブラントが絵画表現の可能性を模索していた姿勢がうかがえる。この自由で大胆な技法は後年の作品にも通じる重要な特徴と位置づけられる。



レンブラント・ファン・レイン
(ライデン 1606-1669 アムステルダム)

《笑う男》

1629-1630 年頃
油彩、金箔で覆った銅
15.3 × 12.2 cm



エマヌエル・デ・ウィッテ
(アルクマール 1616/17-1691/92 アムステルダム)

《想像のカトリック聖堂の内部》

1668 年
油彩、カンヴァス
110.0 × 85.0 cm

エマヌエル・デ・ウィッテは、17 世紀オランダを代表する建築画家であり、教会内部を描いた作品によって高く評価されている。ロッテルダムやデルフトを経て、1651 年にアムステルダムへ移住し、実在または想像上の教会内景画の制作に専心した。写实的表現と豊かな想像力を融合させた作風により、オランダの教会内景画の革新者の一人とみなされている。本作は完全に空想上のカトリック教会を描いたもので、壮大な建築や光の効果、教会内の人物描写が卓越している。17 世紀のオランダではカトリック教徒の信仰が制限されていたことから、このような堂々たる聖堂は現実には存在せず、画家の独創性が際立っている。デ・ウィッテは顧客の宗教に合わせて作品を制作し、教会の雰囲気や光、人々の姿に深い関心を寄せていた。



オランダの風俗画を代表する画家ヤン・ステーンは、秩序のないにぎやかな家庭の情景を描いた風俗画で広く知られているが、実際には多作で多才かつ博識な画家で、歴史画なども手がけている。本作《老いが歌えば若きが笛吹く》は、オランダの諺「老人が歌うように、若者は笛を吹く」を主題とし、複数世代の家族が音楽や飲酒、喫煙に興じる姿を描いている。バグパイプは放蕩や怠惰の象徴であり、背景の情景や鳥かごも寓意を含む。画中には画家自身の姿も登場し、悪習を含めた行為が模倣によって受け継がれていくことを、ユーモアを交えて示している。本作は 1660～70 年代、ステーンが最も充実した活動を行った時期に制作された代表作のひとつで、力強い構図と細部に宿る人間味豊かな表現により、当時から傑作として高く評価されてきた。

ヤン・ステーン
(ライデン 1626-1679 ライデン)

《老いが歌えば若きが笛吹く》

1663-1665 年頃
油彩、カンヴァス
83.8 × 91.9 cm



パウルス・ポッテル
(エンクハイゼン 1625-1654 アムステルダム)

《水に映る牛》

1648 年
油彩、板
43.4 × 61.3 cm

動物画家として知られるパウルス・ポッテルは、28 年という短い生涯に約 100 点に及ぶ多彩な作品を残した。とりわけ牛の表現に優れた才能を発揮し、細密な観察眼と卓越した技法で動物たちに個性を与えている。同じくマウリッツハイス美術館が所蔵するポッテルの代表作《牡牛》の翌年に描かれた本作は、牧草地で憩う牛たちの姿を、水面に映る反影とともに精緻に表現している。画面中央の枯れ木や、光を浴びる家畜、乳搾りをする女性や水浴びを楽しむ人々、馬車で移動する人物など、当時のオランダの農村生活が鮮やかに描写され、細部にまで物語性が込められている。動物たちの光沢のある毛並みから粗い質感までを描き分ける表現は、日常的にスケッチブックを持ち歩き、丹念な自然観察を基に作品を制作したポッテルならではの特徴といえる。人物や風景は控えめに配され、動物を主役とする構成が画面に静かな緊張感を与えている。制作過程における描き直しの痕跡からは、画家が構図の完成度を追求した姿勢もうかがえる。

マリア・ファン・オーステルウェイク
(ノートドルプ 1630-1693 アイトダム)

《装飾的な壺の花》

1670-1675 年頃
油彩、カンヴァス
62.0 × 47.5 cm



*掲載されている作品はすべてマウリッツハイス美術館所蔵 © Mauritshuis, The Hague

みどころ

3

大型スクリーンでフェルメールの名画の「光」に包まれる映像体験。

20m にもおよぶ映像で、フェルメールの光の世界を感じる、ここでしか味わえない特別な体験。

映像では、フェルメールの生涯と描いたモチーフを全作品でたどります。

世界中に点在するフェルメールの全作品が、実際の比率に基づいて集結するほか、通常では見ることができない拡大投影で《真珠の耳飾りの少女》の魅力に迫るなど、デジタルならではの迫力ある展示体験で、名画鑑賞への期待を高めます。



※画像はイメージです。



Mauritshuis

マウリッツハイス美術館

オランダ・ハーグにあるマウリッツハイス美術館は、

主に17世紀のオランダ・フランドル絵画の優れたコレクションで知られる。

館の建物はオランダ古典様式建築の傑作と評され、1644年にヨハン・マウリッツ伯爵(1604-1679)の私邸として建設された。

その後、1822年に王立美術館として開館した。

美術館の基礎となるコレクションは、オラニエ公ウィレム5世の絵画収集品であり、

彼の息子であるオランダ初代国王ウィレム1世によって美術館が創設された。

所蔵作品には、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》、《ディアナとニンフたち》、《デルフトの眺望》の3作品のほか、

レンブラントの《ニコラース・テュルプ博士の解剖学講義》をはじめ、

ルーベンス、フランス・ハルス、ヤン・ステーンなど著名な画家の傑作が含まれている。

マウリッツハイス外観写真 © Mauritshuis, The Hague

開催概要

フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展

17世紀オランダ絵画の名品、奇跡の再来日

Vermeer's Girl with a Pearl Earring: Dutch masterpieces of the 17th century

会期	2026年8月21日(金)～2026年9月27日(日) 会期中無休
開場時間	午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)、 8月28日、9月4日、9月11日、9月18日～9月27日は午後8時まで(入場は午後7時30分まで)
会場	大阪中之島美術館 5階展示室 〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1
主催	大阪中之島美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ
後援	オランダ王国大使館
特別協賛	関西電力、京阪ホールディングス、JR西日本、竹中工務店、TOPPANクロレ、トヨタモビリティ新大阪、ミキモト
協賛	SMBC日興証券、エヌエス生命保険、大阪トヨタNorth、サントリーホールディングス、塩野義製薬、住友電気工業、高砂熱学工業、 たけでん、ダイビル、大和ハウス工業、トヨタレンタリース新大阪、日本生命、びあ、丸一鋼管、三井住友銀行、ヤマト運輸、ロイヤルホテル
協力	KLM オランダ航空、阪急電鉄

【展覧会公式サイト】<https://vermeer2026.exhibit.jp/> 【展覧会公式X】@Vermeer2026 【展覧会公式Instagram】@vermeerosaka2026

観覧料	一般	高大生	小中生	*税込み価格。*一般団体は受付しておりません。学校団体の場合はご来場の4週間前までに学校団体見学のご案内からお申込みください。*障がい者手帳(身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳)をお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお買い求めください(事前予約不要)。*本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。*災害などにより臨時で休館となる場合があります。
	3,000円	1,500円	500円	

本展は日時指定制です。当日券は、前日までの販売状況に応じて空きがある場合に、館内券売機で販売します。

当日券の販売状況は大阪中之島美術館公式サイトをご確認ください。

6月1日(月)より、tabiwa スペシャルツアー先行販売・チケットびあ先行抽選受付を開始します。詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。

*記載内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は展覧会公式サイトでご確認ください。



大阪中之島美術館
OSAKA MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

【アクセス】

京阪：中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分

Osaka Metro：四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分

JR：大阪環状線 福島駅／東西線 新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分

阪神：福島駅より南へ徒歩約10分

【報道関係者お問い合わせ先】

「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》展」

広報事務局(TMオフィス内) 担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063(馬場) 090-5667-3041(永井)

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032

EMAIL：vermeer2026@tm-office.co.jp

問い合わせ先 06-4301-7285(大阪市総合コールセンター) 受付時間 8:00-21:00(年中無休)



Kingdom of the Netherlands

Mauritshuis

大阪中之島
美術館

朝日新聞社

ABC

関西電力
power with heart

TOPPAN

ここらまちつくろう
KEIHAN
京阪ホールディングス

トヨタモビリティ新大阪
TJHG

JR
JR東

TAKENAKA

MIKIMOTO

